

国語

改訂のポイント 1

改訂学習指導要領の趣旨と国語科の課題

今回の学習指導要領の改訂は、現行学習指導要領の理念を継承し、以下の三つの考え方を基本としている。

- 1 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。
- 2 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成とのバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。
- 3 道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

また、中央教育審議会答申においては、高等学校国語科の課題が次のように示されている。

○高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていないこと、話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないこと、古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている。

改訂のポイント 2

目標の構成の改善

小学校及び中学校の目標を受け、国語科で育成を目指す資質・能力が「国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力」と規定されるとともに、教科の目標が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。

第1款 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

※下線部は中学校から発展させたもの。

また、このような資質・能力を育成するためには、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であると示された。「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

なお、科目の目標についても、教科の目標と同様に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されている。

改訂のポイント 3
内容の構成の改善

「国語総合」を例にすると、これまで「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成されていたものが、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に改められた。こうした「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。なお、「学びに向かう力、人間性等」の内容については、教科及び科目の目標においてまとめ示されているため、内容においては示されていない。

〔知識及び技能〕の内容は、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)情報の扱い方に関する事項」、「(3)我が国の言語文化に関する事項」の3事項で構成されている。

〔思考力、判断力、表現力等〕の内容は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」からなる3領域の構成を維持しながら、(1)に指導事項が、(2)に言語活動例がそれぞれ示されるとともに、(1)の指導事項については、学習過程が一層明確にして示されている。

第2款 各科目

第1 現代の国語

2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付

けることができるよう指導する。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A話すこと・聞くこと

(1)指導事項 (2)言語活動例

B書くこと

(1)指導事項 (2)言語活動例

C読むこと

(1)指導事項 (2)言語活動例

※「現代の国語」の例である。他の科目については、当該科目の性格に応じて、必要な事項・領域が示されている。

改訂のポイント 4
科目構成の改善

全ての科目が新設された。このうち、全ての生徒に履修させる共通必修科目は「現代の国語」及び「言語文化」であり、この二つの科目により、総合的な言語能力を育成することを目指している。選択科目は、「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の4科目である。いずれの科目も、共通必修科目で育成された資質・能力を基盤として、関連する内容を発展させた科目である。

科目名	標準単位数
現代の国語	2
言語文化	2
論理国語	4
文学国語	4
国語表現	4
古典探究	4

※は共通必修科目

1 「現代の国語」

実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目として、〔知識及び技能〕における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)情報の扱い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項、〔思考力、

判断力、表現力等]における「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の領域から内容が構成されている。

2 「言語文化」

上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目として、[知識及び技能]における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)我が国の言語文化に関する事項、[思考力、判断力、表現力等]における「A書くこと」、「B読むこと」の領域から内容が構成されている。

3 「論理国語」

主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力の育成を目指し、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目として、[知識及び技能]における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)情報の扱い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項、[思考力、判断力、表現力等]における「A書くこと」、「B読むこと」の領域から内容が構成されている。

4 「文学国語」

主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力の育成を目指し、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目として、[知識及び技能]における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)我が国の言語文化に関する事項、[思考力、判断力、表現力等]における「A書くこと」、「B読むこと」の領域から内容が構成されている。

5 「国語表現」

主として「思考力・判断力・表現力等」の他者とのコミュニケーションの側面の力の育成を目指し、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目として、[知識及び技能]における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)我が国の言語文化に関する事項、[思考力、

判断力、表現力等]における「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」の領域から内容が構成された科目である。

6 「古典探究」

ジャンルとしての古典を対象とし、生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目として、[知識及び技能]における(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(2)我が国の言語文化に関する事項、[思考力、判断力、表現力等]における「A読むこと」の領域から内容が構成された科目である。

改訂のポイント 5

学習内容の改善・充実

1 「語彙指導の改善・充実」

語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基礎となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実が図られている。

語彙を豊かにするには、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高めることである。このことを踏まえ、各科目において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項が系統化して示されている。

2 「情報の扱い方に関する指導事項の改善・充実」

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、

話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。

こうした資質・能力の育成に向け、「現代の国語」及び「論理国語」に「情報の扱い方に関する事項」が新設され、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統で整理して示されている。

改訂のポイント 6

各領域の指導時数、教材の明確化

各科目の〔思考力、判断力、表現力等〕における各領域に関する指導時数については下のよう示されている。

科目名	領域と指導時数
現代の国語	A 話すこと・聞くこと 20～30 単位時間程度 B 書くこと 30～40 単位時間程度 C 読むこと 10～20 単位時間程度
言語文化	A 書くこと 5～10 単位時間程度 B 読むこと 【古典】 40～45 単位時間程度 【近代以降の文章】 20 単位時間程度
論理国語	A 書くこと 50～60 単位時間程度 B 読むこと 80～90 単位時間程度
文学国語	A 書くこと 30～40 単位時間程度 B 読むこと

	100～110 単位時間程度
国語表現	A 話すこと・聞くこと 40～50 単位時間程度 B 書くこと 90～100 単位時間程度

教材の取扱いについては、各科目の性格や特色に応じて、下のとおり、「読むこと」の教材が明確に示されている。

科目名	教材の取扱い
現代の国語	○現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章
言語文化	○古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含める。 ○我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げる。
論理国語	○近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章 ○必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができる。
文学国語	○近代以降の文学的な文章 ○必要に応じて、翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができる。
古典探究	○古典としての古文及び漢文とし、日本漢文を含める。 ○論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げる。 ○必要に応じて、近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができる。

※教材の取扱いについては抜粋